

# カナダのブリティッシュコロンビア州における StrongStart BCについて

松井 剛太  
(幼児教育)

760-8522 香川県高松市幸町1-1 香川大学教育学部

## The Study regarding StrongStart BC of British Columbia in Canada

Gota Matsui

*Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522*

**要旨** 近年、カナダでは学校を第1に考える政策によって、多くの保護者支援プログラムが、地域の他のサービスにつながりやすい小学校で実施されている。本稿では、ブリティッシュコロンビア州のStrongStart BCについて、関連文書と現地視察に基づき、その特徴を報告する。結果、StrongStart BCは就学準備、遊びを中心としたプログラム、地域とのつながりの特徴を持ち、様々な小学校の協力によって成り立っていることがわかった。

**キーワード** カナダ ブリティッシュコロンビア州 ファミリードロップインセンター 学校

### I. 目的

子ども・子育て支援新制度以降、在宅の子育て家庭を含むすべての家庭及び子どもを対象とした取組は拡大している。その中心である地域子育て支援拠点事業は年々増加しており、これまで多くの保護者の多様な子育てニーズに応えてきた。地域子育て支援拠点事業の利用者の満足度は高く、多様な利点があることは広く知られている(中谷, 2014)。また、虐待リスクのある親や貧困による生活困難の親など、特に支援ニーズの高い親にとって地域子育て支援拠点の存在意義が大きいことも指摘されている(星ら, 2014)。

他方、地域子育て支援拠点の意義として、利用した子どもの遊びや育ちに関心を向けたものは十分ではない。地域子育て支援の中で、保護者と子ども双方のエンパワメントを引き出す視

点は提案されており(渡辺, 2009)、子どもの遊びの充実が保護者の子育てにも肯定的に作用することは理解されているだろう。しかしながら、地域子育て支援拠点事業実施要綱には、子どもの遊びについては記されておらず、地域子育て支援拠点事業における活動の指標「ガイドライン」においても、子どもの遊びと環境づくりの重要性は述べられているものの具体的には言明されていない<sup>注1)</sup>。

本稿で対象とするカナダは、日本の子育て支援と異なり、家族を支援することによって子どもの環境を改善し、健全な成長を促すという理念に基づき、予防型の支援を行っている(伊志嶺ら, 2017)。すなわち、将来的な社会的コストの軽減に向けて、子どもの健全育成を第一義に据えて、すべての家庭を対象とした支援を行い、子どもの学びを促す家庭環境の整備を子育て

て支援の大きな目的としているのである。

そのカナダにおいて、近年、子どもの学びにも効果を見出す子育て支援の取組として、小学校を基盤に地域で子育てをしている家庭を対象とした実践が拡大している。具体的には、地域の小学校区を基本単位に据えて、小学校に乳幼児を対象とした遊びを提供する場所を敷設し、子どもと保護者が無償でサービスを受けられるようにするものである。

例えば、カナダの人口の約3分の1が集うオンタリオ州では、すべての幼児の学びと子育て支援のため、学校を第1に考える(schools-first)政策を打ち出している(Ontario Ministry of Education Early Learning Division, 2012)。また、カナダの南西に位置し、バンクーバーを最大の都市にもつブリティッシュコロンビア州でも、同様の方針のもとに地域の子育て家庭に向けた取組が進められている。その効果としては、子どもの言葉や数概念の発達(Yau, 2005)、貧困家庭の子どもの発達保障(Shonkoffら, 2000)、保護者の肯定的な子育て態度の促進(Clevelandら, 2006)など、子どもの学びの促進と家庭環境の改善が示唆されている。

とりわけ、ブリティッシュコロンビア州では、早くから子どもの学力に着目した取組がなされてきた。カナダは過去のPISAの調査において国際的に上位の成績を収めているが、中でもブリティッシュコロンビア州は他州に比べて上位に位置している。その点について、小林(2011)は、ブリティッシュコロンビア州の保育指針に示されている保育内容や大人の役割が好影響を与えていることを指摘している。

ブリティッシュコロンビア州で2006年に開始されたStrongStart BCは、地域の小学校内に設置された無償のファミリードロップインセンターである。開始当初は、16のセンターを立ち上げて試行的に進められたものの、その効果が認められ、2014年12月15日の時点で、287のセンターと95のアウトリーチプログラムが実施されるまでに拡大している<sup>注2)</sup>。

先述したように、日本における地域子育て支

援拠点事業は、保護者の育児不安の解消という側面が強調され、相談の場として発展してきた背景がある。しかしながら、国際的に就学前段階の教育に投資することの費用対効果が認められ、日本の政策も就学前の子どもの保育・教育環境の整備に向かおうとしている中、カナダのように子どもの学びを中心に据えた地域子育て支援の方策を検討することは社会的要請の高い課題であると考えられる。

そこで、本研究では、カナダのブリティッシュコロンビア州で実施されているStrongStart BCの教育理念、施設的环境、活動プログラムの内容、そして運営実態を調査し、子どもの学びと子育て支援における成果と課題を明らかにすることを目的とする。

## II. 方法

本研究では、カナダのブリティッシュコロンビア州におけるStrongStart BCの特徴を調べるにあたって、ブリティッシュコロンビア州教育省によって発行されている表1の関連文書の文献研究、及び現地での視察をもとに研究を遂行する。

### 1. 対象資料について

本研究では、5つの文書を対象とした。

まず、StrongStart BCの運営に関するガイドラインとして、2009年発行のStrong Start BC Early Learning Programs: Operations Guideを対象とした。この文書からは、教育理念や施設の設置基準、活動内容を検討した。

次に、StrongStart BCの活動評価報告書として、2007年発行のEvaluation of Strong Start BC Stage1 documentation, 2008年に発行されたEvaluation of Strong Start BC, 2009年に発行されたStrong Start BC Outreach program evaluationの3つを用いた。これらの文書からは、活動プログラムに参加した子どもの学びや参加した保護者の評価からStrong Start BCの成果と課題について調べた。

最後に、2009年発行のプログラムの質を振り返るためのツールであるReflecting on Quality:

表1 本研究の対象資料

① 運営に関するガイドライン
・ Strong Start BC Early Learning Programs: Operations Guide. (2009)
② 活動評価報告書
・ Evaluation of Strong Start BC Stage 1 documentation. (2007)
・ Evaluation of Strong Start BC. (2008)
・ Strong Start BC Outreach program evaluation. (2009)
③ プログラムの質を振り返るツール
・ Reflecting on Quality: Program Reflection Tool for StrongStart BC. (2010)

Program Reflection Tool for StrongStart BCである。ここには、プログラムの質を高めるためのポイントがチェックリストの形で示されており、StrongStart BCの評価基準を探るのに適した文書であると考えられる。

これらの資料を通して、StrongStart BCの教育理念、施設の実態や活動内容の特徴を概観し、StrongStart BCの意義と課題について検討した。

## 2. 現地視察について

関連文書の文献研究に加えて、実際の運営実態を把握するため、現地視察も行った。2016年4月8日にStrongStart BCに注力しているブリティッシュコロンビア州リッチモンド地区で3カ所のStrongStartセンターを視察した。対象としたのは、Grauer StrongStart, Woodward StrongStart, Thompson StrongStartである。視察の際には、各センターの教師への聞き取りも行った。また、ブリティッシュコロンビア州における幼児期の学びの枠組みの作成メンバーであるブリティッシュコロンビア大学のIris Burger氏、ブリティッシュコロンビア州リッチモンドのEarly Learning Teacher ConsultantであるMarie Thom氏も視察に同行し、両名からもブリティッシュコロンビア州における教育理念やStrongStart BCの実態に関する聞き取りを行い、調査の参考にした。

## Ⅲ. 結果と考察

### 1. StrongStart BCの概要

StrongStart BCは、幼児期の子どもに質の高い遊びの環境を提供すること、保護者に幼児期の子どもの遊びを進める効果的な方法を観察・実践する機会を提供することを目的としている。プログラムは多くのセンターで、午前（9時15分から12時15分）と午後（12時45分から15時45分）の1日2回行われており、3歳児未満と3歳児以上に分かれている。プログラムは、自由遊び、読み聞かせ、おやつ、歌、造形活動、身体活動などを中心に構成される。

センターは、各校区の小学校内に設置されており、ペアレントリソースセンターなど他の子育て支援サービスも近隣に多い立地にある。また、州面積が広大であることから、世帯数の少ない地域には、アウトリーチプログラムも実施されている。

利用者は、全日制のチャイルドケアに通っておらず、両親やその他の養育者（祖父母、ベビーシッターなど）と家庭で生活している0歳から5歳の幼稚園入園前の子どもとその家族である。両親または養育者であれば、誰でも子どもを連れてセンターに来所することができる。そのため、両親が仕事をしており、かつ経済的な事由や待機児童の問題で保育所等に子どもを預けられない場合でも、子どもは祖父母やベビーシッターなどとともセンターに来ることが可能である。

支援者は幼児教育の資格（Early Childhood Educator）を持っていることを要件に採用される。センターは、基本的に1名の支援者が運営し、午前と午後のプログラムを担当する。各プログラムとも、12家族から16家族程度が利用する。

### 2. 小学校内の設置と就学準備

#### (1) StrongStart BC設立の経緯

StrongStart BCの始まりは、就学準備の要請を契機としている。2002年、ブリティッシュコロンビア大学のHELP（Human Early Learning Partnership）が実施したThe ECD Mapping

Projectの報告書が公表された(Hertzmanら, 2002)。それにより, プリティッシュコロンビア州内の地域別に幼稚園にいる子どもたちの発達状況が示され, 多くの地域において25%, 一部では40%以上の子どもが, 幼稚園において発達の課題を抱えていることが明らかにされた<sup>注3)</sup>。この研究を契機に, 小学校区を単位として出生から子どもの発達を支えるシステムの必要性が強調された(Mort, 2004)。

加えて, 多様な国籍や文化的背景を持つ家庭が多いカナダの国情も大きく影響している。カナダは, 年間20万から25万人程度の移民を受け入れており(井出, 2014), 多文化主義に基づいた政策が行われている。プリティッシュコロンビア州でも, 移民・難民の受け入れが積極的に行われており, 特定の国を背景にもつ人々のコミュニティが散在している<sup>注4)</sup>。そのため, 様々な家庭のニーズに応じた子育て支援プログラムが発展しやすい一方で, 就学準備といった一義的な目的をもった取組は州全体として適用しにくい。

したがって, 地域の小学校の中で子育て支援プログラムを実施することは, 保護者の参加と就学準備を促すうえで合理的であったようである。StrongStart BCの運営ガイドラインには, 設置場所として幼稚園のクラスルームに近く, 自然な形で幼稚園の先生, 子ども, 保護者がかわりを持ちやすい場所にすることが推奨されている。さらに, StrongStart BCのプログラムは, 学校内の図書館, コンピュータールーム, 体育館, 運動場などの施設が利用できるように構成されている。

このように, StrongStart BCの立地条件やプログラムに至るまで, 子どもと保護者が自然に学校文化を知ることができるような工夫がなされている。つまり, StrongStart BCは, 小学校内に設置したことにより, 多様な家庭環境にある子どもと保護者に自然と小学校の教育環境を知る機会を提供しているのである。

(2) StrongStart BCと幼稚園, 小学校の連携  
StrongStart BCが小学校内に設置されたことにより, 運営にあたっては, 小学校にもか

りの負担がある。上述したように, 部屋の確保や施設利用の調整をするだけでなく, StrongStart BCの部屋までの道順を示す標識の設置, 学校だより等の案内にStrongStart BCの情報を掲載すること, さらに天候等によりプログラムが休みになる場合などは, 学校が保護者の問い合わせに対応しなければならないとしている。

また幼稚園や小学校の教師はStrongStart BCの教師と定期的に会議を持ち, StrongStart BCのプログラムの計画や反省にとともに関わることが示されている。これは, StrongStart BCのプログラムと幼稚園の教育内容に関連性を持たせ, スムーズに就学を進めることを意図している。実際, StrongStart BCの教師と幼稚園の教師の関係性が築かれている地域では, プログラムの効果がより高くなることが報告されている。さらに, 参加する子どもや保護者が安心して学校に出入りできるようにするため, 校長にはStrongStart BCに立ち寄って子どもや保護者とコミュニケーションをとることが推奨されている。

このように, StrongStart BCの設置に伴い, 幼稚園や小学校にも相応の負担が求められるが, 保護者が早くから小学校に出入りし, 校長や幼稚園, 小学校の教師, そして事務員とかかわることによって, 学校への所属感や肯定的な感情を持つことができるという効果もみられるという。すなわち, StrongStart BCが幼稚園, 小学校との連携を密にすることは, プログラム内容だけでなく, 子どもや保護者の肯定的な学校受容にも影響を及ぼしていると考えられる。

また, 小学校が担う役割の一つに, StrongStart BCに参加した家族の情報管理がある。それに使用されるのが, MyEducationBC(以下, 教育履歴)とBritish Columbia Enterprise Student Information System(以下, 生徒の情報システム)という独自のオンラインシステムである。

プリティッシュコロンビア州の子どもは, 教育省の管轄する施設で教育を受けると, オンライン上で教育履歴の作成が促される。保護者

が、子どもの戸籍上の氏名、性別、生年月日、出生国などの法的な基本情報を登録すると、子ども一人ひとりにPersonal Education Numberという個人番号が割り当てられる。その個人番号は、子どもが教育機関に在籍する限り有効であり、それまで受けてきた教育に関する履歴が蓄積される仕組みになっている。

さらに、各学校では、生徒の情報システムを使用して、在籍する生徒の個人番号を管理している。つまり、各学校段階において、在籍する生徒がこれまで受けてきた教育に関する履歴を確認することができる。StrongStart BCもこのシステムに組み込まれており、プログラムに参加したすべての子どもの予約状況、参加状況、個人番号を保管することが求められている。こういった情報は、教育省への報告にも活用されており、1月と7月の年2回の報告が義務付けられている。

つまり、一度でもStrongStart BCでプログラムを受けた子どもの情報は、このシステムによって引き継がれ、幼稚園以降の教師が参照できるようになっているのである。

### 3. プログラムの質と子育て支援

#### (1) 遊びを中心としたプログラム

StrongStart BCでは、子どもの遊びを中心にプログラムが組まれている。これは、子どもにとって、遊びを通じた学びの意義が大きいことに加え、子育て支援という観点でも効果が高いと考えられているためである。

ファミリードロップインセンターに関する研究では、保護者を中心に支援するよりも、子どもの遊びを中心としたプログラムに保護者の参加も促すもののほうが、子どもの発達にも保護者の子育てにも効果が高いことが指摘されている(Shaw, 2006; Boyleら, 2002)。これは、「保護者が子育てへの自信をもつのは、子どもの発達への貢献を感じたときである」という知見(Weissら, 2006)によって裏付けられている。

StrongStart BCにおいても、プログラムを進めるうえで、保護者の参加を促すことが不可欠である。そのため、保護者は子どもにとって最

初の教師であることを伝える工夫として、子どもの学びを促すアイデアをポスターで示したり、集団活動の中で読み聞かせ等の見本を示して家で行うときの方法を説明したり、子どもの遊びに関する写真やドキュメンテーションを掲示したりすることが記されている。こういった工夫を通して、保護者がプログラムに積極的に参加し、子どもの学びや発達を理解できるようにすることが教師の大きな役割とされている。

また、プログラムの効果を高めるために、これまでのファミリードロップインセンターの知見を参考にしうえて、表2の5つを活動内容として採用している。これらは、プログラムを通して、子育ての参考にもなる内容といえる。

StrongStart BCに参加した保護者に対するアンケート調査の結果によると、98%の保護者がプログラムで最もよかった点として「遊び」を挙げていた。つまり、子どもの遊びを中心としたプログラムに対して、ほとんどの保護者が肯定的な評価をしているのである。

#### (2) 「幼児期の学びの枠組み」との関連

プログラムの細かい内容は、各センターの教師に任されているものの、目標は共通の基準を参考に設定されている。StrongStart BCでは、プリティッシュコロンビア州で定めている幼児期の学びの枠組み(Early Learning Framework)に基づいた目標の設定がなされている。

「幼児期の学びの枠組み」は、2008年に策定

表2 プログラムの効果を高める活動内容

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① 集団活動があり、保護者と子どもが歌や手遊びを選択できるようにする。また、家族が持参したCDなどの音源を使う。</li><li>② 保護者同士や教師との会話の時間があり、保護者が子育ての情報やアイデアの交換をして経験を共有できるようにする。</li><li>③ 読み聞かせの時間に教師がモデルとなって親に見本を見せる。</li><li>④ 家族に絵本を持ってきてもらい、家族同士で貸し借りできるようにする。</li><li>⑤ プログラムの目標に関連させて、センターだけでなく、家でもできる簡単なゲームや活動を提示する。</li></ol> |
|---|

されたもので、カナダにおける幼児期の発達に関する研究結果に加え、イタリアのレッジョエミリアの実践やアイルランド、スウェーデン、ニュージーランドのカリキュラムを参考にしている。その内容は、多文化共生の国家理念を反映して個々の家庭の多様性と地域社会での生活に配慮したうえで遊びを中心にした学びを基盤にしている。子どもの学びは4つの領域に区分されており、福祉と所属、探索と創造性、言語とリテラシー、社会的責任と多様性となっている。そして、4つの領域ごとに、0,1,2歳と3,4,5歳で考慮すべき事項が記載されている。

これは、ブリティッシュコロンビア州におけるすべての就学前施設の保育・教育内容のガイドラインとして活用されている。

StrongStart BCもプログラムにおける目標は、この4領域に基づいて設定され、毎月見直される。目標は、一人ひとりの子どもに対してではなく、おままごとコーナー、絵本コーナー、ブロックコーナーなど、センターにある環境ごとに定められる。これは、すべての子どもが毎日くるわけではないことと、プログラムの物理的環境は保護者、教師に次ぐ「第3の教師」であるという理念に基づいている。そのため、StrongStart BCでは、教師は環境構成に十分に考慮しており、環境を通して子どもの遊びを支えるための工夫を施している。

このように、「幼児期の学びの枠組み」に照らして目標を設定することで、他の就学前施設に通う子どもとの経験の差を埋めることも意識されているのである。

### (3) 保護者の参加を促す環境づくり

StrongStart BCは、誰もが気軽に訪問することができるよう、子どもだけでなく保護者も安心できる環境を提供することが求められている。

StrongStart BCの運営ガイドラインには、必要な環境構成として、いくつかの観点が挙げられている。例えば、「文化的に適切な環境として、参加している家庭の国の文化を象徴するような物や絵が飾られているか」、「文化的多様性の理解を促す材料や活動があるか」、などが記

されている。また、湯茶コーナーや大人用のイスを設置することや、家庭の雰囲気を出すためのラグや植物を置くこと、家族の持ち物やベビーカーが置けるスペースを用意することなど、保護者が安心して参加できるようにするための項目が詳細に示してある。

### 4. 子育て家庭における地域包括支援の拠点

小学校内に設置されたドロップインプログラムは、別の場所で設定されたプログラムよりも家族が容易にアクセスでき、他の関係機関ともつながりやすいことが指摘されている(Colley, 2006)。

StrongStart BCでも、教師は必要に応じて、保健や福祉の担当者、別のプログラムの担当者を招くことが推奨されている。実際、貧困世帯の多い地域では、保護者がStrongStart BCを通して、別の保護者支援プログラム、カウンセリングプログラム、ペアレントトレーニングのプログラムと連携したことが報告されている。報告書の中では、タイネルとレブルストークという地域で、StrongStart BCへの参加を契機に地域の別の関係機関とつながった例が示されており、地域における子育て支援の拠点となることが示唆される。

また、小学校内のドロップインプログラムを中心に地域の関係機関がつながることは、教師の学びの機会を増やし、知識や技術の向上にも寄与することが報告されている。すなわち、小学校内にStrongStart BCを設置することは、子どもや保護者だけでなく、教師にとっても恩恵があるといえるだろう。

ただし、この連携を可能にするためには、校長の存在が大きい。StrongStart BCでは、校長の役割として、小学校の内外でStrongStart BCの関係者と連携を進めることが示されている。さらに、校長が変わるときには、次の校長にスムーズに引き継ぎがなされるよう、StrongStart BCの活動を説明したり、教師との関係を取り持ったりすることが求められている。校長は地域の学校に長年勤めており、豊富な人脈を有しているため、その役割は非常に重

要である。

以上のように、StrongStart BCは、保護者の有するニーズを把握し、個々に応じた他の関係機関とつなぐ意味で、子育て家庭において地域包括支援の拠点となっていると考えられる。

#### IV. まとめ

ここまで述べてきたように、StrongStart BCの特徴として、①小学校内に設置することにより、就学準備の意義を有していること、②子どもの遊びを中心とした活動プログラムの提供による子育て支援であること、③地域の子育て家庭を地域の多様なサービスとつなぐこと、の3つが見られた。すなわち、StrongStart BCは、地域の未就学の子どもと保護者に対して、小学校を自然と知る機会を与え、遊びを通した学びの機会を提供し、地域の関係機関ともつなぐという位置づけにあるといえるだろう。

これらの意義は、StrongStart BCが小学校内に設置され、小学校の校長や教師の協力に支えられて生まれるものでもある。そこには、教育省の管轄下でStrongStart BCの運営が行われていることも影響している。

StrongStart BCを無償で行うためには、相応の予算措置が必要であったと考えられる。当時、カナダはOECDの調査において、0歳から6歳の教育に対する公的支出のGDP比が、対象となった14か国中最も低い割合であったほど、幼児期の教育政策に後れていた。ただし、カナダ国内で幼児期の学びに関する研究は着々と進められており(Whiteら, 2015)、ブリティッシュコロンビア州においても、幼児期の学びの格差が研究によって裏付けられたことにより、就学前施設に通っていない子どもたち、とりわけ貧困家庭や移民の多い地域において、ニーズが高まり、実現に至ったのである。幼児期の子どもの学びと家庭の役割の重要性を受けとめ、実効性の高い取組を進めた点は評価されるべきことであろう。

また、StrongStart BCでは、子どもの早期からの「学習」への傾倒を防ぐため、教師は、幼児教育の資格を持っていることを要件にしてい

る。視察に同行したMarie氏によると、幼児教育の資格を持った者が支援にあたることで、学習の前倒しではなく、遊びを中心とした環境の中で保護者の子育てに役立つ情報を提供することをねらいとしているとのことであった。つまり、保護者が子どもに学習を押し付けることのないように考慮されているのである。

一方、StrongStart BCを運営するにあたっての課題も見られた。現地視察からわかったことは、StrongStart BCに通う子どもや保護者が幼稚園の教師や子どもと交流する機会を持つためには、校長がStrongStart BCの意義を理解し、協力的である必要があった。また、貧困家庭や移民の多い一部の地域では、利用希望者が過剰になり、設置スペースが確保できなかった事例や、既存の保護者支援プログラムの運営者からの反発があってスムーズに開始することができなかったことなどが報告されている。さらに、教師の雇用においても、希望者が見つかりにくく、最終的には、個人的な人脈をたどって雇用に至ったケースが多かったとされている。これらの課題の多くは、StrongStart BCの開始当初に見られたものである。現在では、設置数も増加して、子育て家庭が利用できるサービスの一つとして定着している。

日本においても、コンパクトシティの形成から子育て支援施策が見直され(益田, 2016)、多機関の協働を基盤とする地域包括ケアシステムに子育て支援を位置づける動向がある(當間, 2016)。こういった考えは、小学校を中核に家庭を様々な機関につなぐStrongStart BCの取組とも合致する部分も多い。しかしながら、教育と福祉の所管の違いもあってか、子どもの育ちや遊びの保障を地域子育て支援拠点事業との関連の中で積極的に議論されていないのが現状である。

StrongStart BCのような取組を輸入することは、保育・教育システムの異なる日本では難しい。しかし、その実施にあたっての経緯や実際の活動内容は、今後の日本の地域子育て支援のあり方を検討する上で議論に値する示唆を含むものではないだろうか。

## 注

- (注1) 厚生労働省 (2017) 地域子育て支援拠点事業の実施について (実施要綱) [http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/kosodate/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/kosodate/index.html) (情報取得: 2018年11月1日)・NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 (2017) 地域子育て支援拠点事業における活動の指標「ガイドライン」(改訂版) [https://kosodatehiroba.com/new\\_files/pdf/guide29.pdf](https://kosodatehiroba.com/new_files/pdf/guide29.pdf) (情報取得: 2018年11月1日) を参照。
- (注2) 下記, プリティッシュコロンビア州教育省のHPより, 各地域におけるStrong Start BCの実施場所がダウンロードできる。 <http://www2.gov.bc.ca/gov/content/education-training/early-learning/learn/strongstart-bc> (情報取得: 2018年11月1日)
- (注3) 調査では, EDI (Early Development Instrument) という発達指標が用いられており, 健康と福祉 (Physical health and well-being), 社会性 (Social competence), 情動性 (Emotional maturity), 言語と認知 (Language and cognition), コミュニケーションと一般教養 (communication and general knowledge) に関して, 幼稚園の教師に尋ねる質問紙となっている。したがって, 個々の子どもの発達ではなく, 集団レベルでの発達を対象としている。
- (注4) Marie Thom氏によると, 筆者が視察した地域でも, 中国本土, 香港, ロシアなどのコミュニティが見られるとのことであった。

## 引用文献

1. 中谷奈津子 (2014) 地域子育て支援拠点事業利用による母親の変化—支援者の母親規範意識と母親のエンパワメントに着目して—。保育学研究, 52 (3), 9-21.
2. 星三和子・塩崎美穂・向井美穂・上垣内伸子 (2014) 地域子育て支援拠点における困難や悩みをもつ親の支援に関する考察—支援職の「語り」の分析—。保育学研究, 52 (3), 22-33.
3. 渡辺顕一郎 (2009) 子ども家庭福祉の基本と実践。金子書房, 37-41.
4. 伊志嶺美津子・藤川史子 (2017) 第6章 カナダ一人権意識の高い多民族国家—。泉千勢 (2017) なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか—子どもの豊かな育ちを保障するために—。ミネルヴァ書房, 197-237.
5. Ontario Ministry of Education Early Learning Division (2012) Schools-First Child Care Capital Retrofit Policy. <http://www.edu.gov.on.ca/eng/policyfunding/memos/july2012/Schools-FirstChildCarePolicy.pdf> (情報取得: 2018年11月1日)
6. Yau, M. (2005) Do parenting and family literacy centres make a difference? Research Today, 1 (1), 1-4.
7. Shonkoff, J., & Phillips, D. (2000) Neurons to neighbourhoods: The science of early child development. Washington, DC: National Research Council.
8. Cleveland, G., Corter, C., Pelletier, J., Colley, S., Bertrand, J. & Jamieson, J. (2006) Early childhood learning and development in childcare, kindergarten and family support programs. Toronto, ON: Atkinson Centre at OISE/UT.
9. 小林誠 (2011) PISA型学力に対するBC州 (Canada) の保育—Guiding Children's Behaviourから探るPISA型学力の形成—。早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊 18号-2, 121-129.
10. Ministry of Education, Province of British Columbia (2009) Strong Start BC Early Learning Programs Operations Guide, 3-4. [http://www2.gov.bc.ca/assets/gov/education/administration/early-learning/strongstartbc/ss\\_operation\\_guide.pdf](http://www2.gov.bc.ca/assets/gov/education/administration/early-learning/strongstartbc/ss_operation_guide.pdf) (情報取得: 2018年11月1日)
11. Hertzman, C., McLean, A. C., Kohen, E.D., Dunn, J. & Evans, T. (2002) Early Development in Vancouver: Report of the Community Asset Mapping Project (CAMP). Human Early Learning Partnership.
12. Mort, N. J. (2004) THE EDI (EARLY DEVELOPMENT INSTRUMENT) IMPACT

STUDY: BC School Districts Embracing Young Children and Their Families. HELP, HUMAN EARLY LEARNING PARTNERSHIP. します。

13. 井出和貴子 (2014) カナダ—移民受け入れ先進国が直面する問題—。大和総研。 [http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/world/20141119\\_009154.pdf](http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/world/20141119_009154.pdf) (情報取得：2018年11月1日)
14. Shaw, D. S. (2006) Parenting programs and their impact on the social and emotional development of young children. Centre of Excellence for Early Childhood Development, 1-7.
15. Boyle, M. H., & Willms, J. D. (2002) Impact evaluation of a national community-based program for at-risk children in Canada. *Canadian Public Policy*, 28 (3), 461-81.
16. Weiss, H., Caspe, M., & Lopez, E. (2006) Family involvement in early childhood education, policy brief, number 1. Boston, MA: Harvard Family Research at Harvard Graduate School of Education.
17. Colley, S. (2006) Integration network. Institute for Child Study, OISE/UT.
18. White, L.A., Prentice, S. & Perlman, M. (2015) The evidence base for early childhood education and care program investment: What we know, what we don't know. *Evidence and Policy*. 11 (4), 529-546.
19. 益田桂輔 (2016) 子育て支援のまちづくり—コンパクトシティと子育て施策の親和性—。新都市 70 (12), 11-13.
20. 當間紀子 (2016) とともに地域で暮らす仲間として何ができるか—地域まるごとケア・プロジェクト—。発達, 146, ミネルヴァ書房, 56-61.

## 謝辞

本研究の実施にあたり、ブリティッシュコロンビア大学のIris Burger先生、ブリティッシュコロンビア州リッチモンドのEarly Learning Teacher ConsultantであるMarie Thom氏に多大な協力を賜りました。ここに記して深謝いた